

景況レポート

(8月分・情報連絡員80名)

製造業・非製造業ともにDI値は下降

～繊維製品は依然厳しい状況～

【概況】8月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが10.0%（前月調査10.0%）、「悪化」が43.8%（同38.8%）で、業界全体のDI値は-33.8となり、前月調査と比較して5.0ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-21.9で前月調査(-25.0)と比較して3.1ポイント上回った。また、非製造業全体のDI値は-41.6で前月調査(-31.3)と比較して10.3ポイント下回った。

製造業では、一部で受注が増加した業種もあったが、ほとんどの業種は厳しい状況が続いている。非製造業では、好調な自動車販売を除いて全般的に悪化した。秋田市の商店街では今のところ「エリアなかいち」による集客効果は見られない。

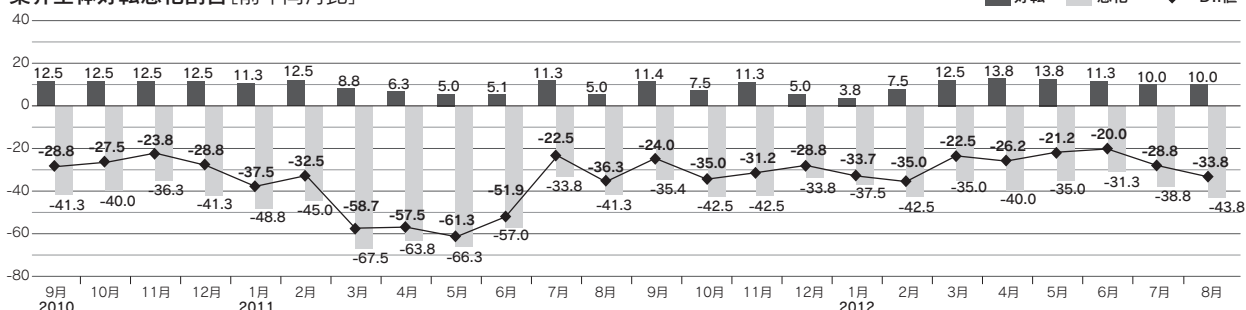
(回答数:80名 回答率:100%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種						
製造業	☔	☔	☔	☔	☔	☔
非製造業	☔	☔	☔	☔	☔	☁

【凡例】
 ☀ 快晴 30以上
 ☁ 晴れ 10以上 30未満
 ☁ 曇り △10以上 △30未満
 ☔ 雨 △10未満 △30以下
 ⚡ 雷雨 △30以下
 【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index（ティフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

清酒製造	7月の清酒出荷量は、1,404,663ℓで前年同月比104.6%となった。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比118.3%、純米酒が114.5%、本醸造酒が96.4%、レギュラー酒が102.4%という状況である。
繊維製品	依然として中長期的な受注予測が立たず、厳しい工場運営を強いられている。どのアパレル企業も猛暑による悪影響で、あまり秋物の企画に力を入れている。
一般製材	製材品は住宅着工数が伸び悩む中、リフォーム用の板材の動きが活発。また、被災地向け役物製品も動いたことにより前年同月を大きく上回った。一方で構造材は回復の兆しが見えない。
生コン	4月～8月累計で前年比112%前後と累計では前年を上回っているが、8月の出荷数量は前年同月比90%前後にとどまった。これは前年度の震災による需要減の反動と考えられ、7月からは徐々に前年を下回っている。
鉄鋼	各社とも時期的に受注を確保し、稼働率も上がっている状況で、県内物件、震災復興物件ともに県外商社やゼネコンからの見積り依頼が増加している。
自動車販売	8月の新車販売台数は、登録自動車1,903台（前年同月比106.5%）、軽自動車1,801台（同125.5%）で、合計3,704台（同115.0%）であった。特に、軽乗用車は1,336台（前年同月比144.3%）と大きな伸びを示している。エコカー補助金の終了間近であるが、大きな駆け込み需要はなかった。
石油販売	ガソリン1ℓあたり135円40銭で前月比1円30銭の上げ。軽油1ℓあたり119円60銭で前月比10銭の下げ、配達灯油は18ℓで1,567円で前月比11円の下げとなった。14週連続下げの後、横這いの状況でマージンの回復に至らず依然として苦戦している。
商店街	食料品、酒小売等は「エリアなかいち」オープンや天候の影響で売上げが減少している。「身の回り品」も6月までは順調だったがその後売上が減少。（秋田市）
旅行	前年同月比でみると国内75%、海外97%で、国内の落ち込みが激しい。昨年の同月は大震災の自粛ムードが払拭されたことにより増加したが、今月はその反動減と思われる。ここに至り国内の景気動向が不安要素となっており、秋の旅行への影響が懸念される。
トラック	数量、収入とも前年同月比5%で推移した。品目別では自動車部品が15%、西瓜、自主米はそれぞれ10%増加したが、他の品目は軒並み減少している。燃料価格が今月は3円50銭上昇、9月以降も高騰を続けるものと思われ、事業収益は一向に改善の兆しが見えない。軽油価格は前年同月対比で-2円、前月対比で+3円50銭となっている。